

農協と組合員をつなぐ広報誌

なかしゃんべつ



豊原保育園の園児たちが青野牧場さんへイチゴ狩りに行って楽しむことができました

当日は暑すぎるほどの天気の中、青野牧場さんの手前700メートルを汗をかきながら親子で遠足。

赤く大きく育ったイチゴを前に園児たちはおおはしゃぎ、さっそく口に含んで「甘くて、美味しい！」と大喜びでした。



8月号

2015 Vol. 451



牛に負担を少なく増頭、増産を図りたい いろいろな経験をし日々勉強

豊原地区・森文子牧場後継者 **森 友佑**さん(23歳)

今月は豊原地区の森牧場の後継者・森友佑氏に取材を受けていただきました。

森牧場の始まりと歴史

曾祖父・助右衛門さんが家族を連れて、標茶町から現在の豊原地区に昭和32年にパイロットファーム入植者募集の話を聞き入植。当初はホルスタイン牛2頭、馬1頭で酪農経営の第一歩を歩み始めました。

入植当初は、生活のためビート、えん麦などを耕作しながら、乳牛頭数の増産および生産の向上を図る一方、農地の拡大、牛舎はD型施設などの建設、現在の基盤づくりに曾祖父・助右衛門さんと祖父・光夫さんは苦難されたそうです。

曾祖父・助右衛門さんから祖父・光夫さんへ昭和43年に経営移譲、父・正一さんは別海高校酪農科を卒業後に、実家へ就農しました

平成2年に父・正一さんが母・文子さんと結婚。祖父・光夫さんから父・正一さんへ経営移譲された平成4年に長男・友佑くんが誕生しま

した。

「両親に幼少期の事をお尋ねすると、「何にでも興味があり、牛舎でもよく遊んでいた」そうです。

いつもおばあちゃんと一緒だったため、おばあちゃんの仕事だった哺乳や仔牛の世話を手伝っていました。小学3年生から始めた野球



気温が高く木陰で休む牛を気遣い様子を見にきました

に高校卒業まで打ち込み、高校時代は朝練習がない期間は、朝の搾乳を手伝ってから学校へ行き、土日は朝夕の仕事の合間に練習をするというとてもハードな毎日だったものの、充実した学生生活を送っていました。その頃に、長男である自分

がいずれ経営を継ぐ事になるだろうと考えていました。

別海高校では酪農経営科の就職希望者コースに進学し、簿記等就職に必要な分野を学びました。

卒業後は、「一度外に出て、視野を広げたほうが今後のためになるだろう」という家族の勧めもあり、苦小牧の大手農機具メーカーに就職し、トラクターの組み立てや日本規格に合わせた塗装、部品の取り付けなどを習得しました。

機械の種類は幅広く、それまで目にする事がなかった大豆や麦、馬鈴薯の収穫作業機を見て、それぞれの作物の成長の仕方、収穫方法も学びました。

出張先の千歳や恵庭、興部の酪農家へ出向くと、経営スタイルやTMRセンターの規模の大きさに触れるかわら、実家に当たり前のようにいた牛たちを見て改めて牛の良さを感じ、就職してから2年半が経って実家の森

牧場へ就職しようと決意し、戻ってきました。

平成25年11月の就農と同時に、別海高校専攻科へ進学しました。

地区内に住む同級生が多いので、一緒に食事をした時、日頃の仕事の疑問や、情報交換ができるので助かっているそうです。

酪農の面白さ・大変さ

「日々、いろいろな問題が発生するので、ひとつずつ解決していかないと前へ進めないのは大変だけれど、搾つ



優しい目で子牛にミルクをあげる友佑さん

ただ分だけ収入に繁栄されることや、全て結果が数字として表れる部分は酪農にやりがいを感じています」と話してくれました。



休日の過ごし方

インドアタイプで、最近ではテレビでスポーツ観戦をするのが楽しみで、学生時代に打ち込んでいた野球(国内外)を始め、ヨーロッパのサッカー、アメリカのNBAバスケットと広く頻繁に見るそう、それぞれ競技ごとの好きな選手を聞くと、野球は攻守に優れたロビンソン・カノー(シアトル・マリナーズ)。サッカーは世界的スーパースターのリオネル・メッシ(F Cバルセロナ)。パ

スケットは歴No.1シューターの呼び声が高いステファン・カリー(ゴールデンステート・ウォリアーズ)と、どのスポーツにおいてもエキサイティングなプレーの選手に注目していると教えてくれました。

これからの目標

将来の目標を友佑さんに尋ねると「今はまだ両親に支えられて仕事をしている面が多いけど、1日も早く父と母を支えるような仕事をしていく事。体細胞を削減し乳質を良くしながら増頭増産を図りたい」と将来の目標を教えてくれました。今回、快く取材を受けていただいた森友佑さんありがとうございました。

<森 友佑プロフィール>

1992年4月25日森牧場の2男2女の長男として生まれました。

2010年別海高校を卒業後、一旦は社会勉強をし、森牧場4代目として就農し現在に至る。趣味はスポーツ観戦、筋トレ。

農水省生産局畜産部との

平成28年度農林水産予算概算要求に係る意見交換並びに国会議員への要請

中春別酪農対策協議会(西川寛稔会長)による農政運動を去る7月13日・15日に実施いたしました。

新年度予算編成に向け、8月概算要求・要望に対する農業予算に向けた、内容

の確認を行いながら各種対策への提言や要望を限られた時間の中で精力的に実施いたしました。

特に酪農畜産農家に対する所得確保対策をはじめ、生産基盤対策・資金対策などの総合的な政策の実施、さらには既存の家族経営が引続き営農を継続し、地方に定住しつつ次世代に豊かな農地・環境を引き継いでいけるよう各種支援対策の充実強化について強く要請いたしました。

農水省では、酪農主産地における当地区の実態と現状を熱心に聞きながら、意見交換の対応をいただき、活発な内容となりました。

2日目には議員会館へ出向き、与党の各国会議員へ要請し、畜産クラスター関連事業及び各種資金対策や



新規就農担い手対策支援対策の充実強化をお願いしてまいりました。

(要請者)

会長 西川寛稔

副会長 高橋真悟

J A 中春別副組合長理事

藤倉紀夫

事務局 相澤、水谷計5人

女性部のページ 助け合い・支え合い・知恵を出し合い活動 女性部はこんなことをしています!

みんなで草取り、あっという間に綺麗になりました

中春別農協女性部

7月24日に農協前の花壇整備を行いました。連日の猛暑の中、雑草達は元気に育っており、根も深く抜くのに一苦労する雑草もありました。特に木の下に生えている雑草が手ごわく皆さん苦労していたようですが、たくさんの人が集まってくれたので、あっという間に終わる事ができました。

雑草がなくなった花壇はすっきりとして、花がより綺麗に見えるようになりました。これから花が綺麗に咲き続けられるように、定期的に女性部では花壇整備を行う予定です。



今年で5年目となる夢都里路くらぶ援農体験を6月16日～6月18日の3日間の日程で、生活クラブ生協組合員3人（渡邊恵津子さん、小林昌代さん、渡辺優理恵さん）を招き、豊原地区の奥山牧場で酪農体験を実施しました。

酪農の生産現場を体験し「安心・安全」を確認

中春別農協到着後、参加者同士の自己紹介と3日間の行程についてのオリエン



生活クラブ生協組合員の3人を囲んで懇親会を開催

テーションを行い、奥山牧場へ向かいました。奥山牧場に説明しながら仔牛のお世話や搾乳補助を行っていた

だき、明日からの本格的作業の準備をしました。また、消費者と直接話せる貴重な機会として、夜には懇親会も行いました。中春別酪農対策協議会より西川会長、斉藤常任委員、佐藤常任委員、馬場常任委員、農協より望月理事、伊藤理事、館内営農部長他職員3人、チクレンより竹田次長が参加し、生産者と消費者との貴重な意見交換の場となりました。

2日目から本格的に作業の開始です。朝5時に牛舎に行き、実際に作業をしていただきました

生活クラブ連合会 夢都里路くらぶ援農体験2015

た。子牛にミルクをあけて寝床の掃除をし、次は搾乳作業。搾乳する機械が予想よりも意

外と重いようで、空気を入れずに乳頭に付けるのが少し難しいようでした。夕方の作業まで時間があ

ることから、摩周湖・硫黄山への観光を行いました。当日は天候が悪く、摩周湖を見渡せないと思いましたが、到着後、時折ガスが晴れ、摩周湖・硫黄山の全景を見ることができました。帰宅後は朝の作業と同じく子牛のお世話から搾乳作業



2日目からは本格的に搾乳作業の実施、機械が予想以上に重く苦戦する3人

までしていただき、夕食にはレンガの窯を使った本格的ピザを焼いていただきました。

3日目は朝の作業を終え、飛行機の時刻まで時間があることから野付半島へ行きました。3日目もあいにくの天候ではありましたが、トドワラ散策を行い初めての別海十景を見ていただき、道東地方を後にしました。2泊3日と短い日程では

ありましたが、食卓に並ぶ牛乳・乳製品や牛肉がどのような場所で生産されているのかを見ていただけたことが今後の消費拡大に繋がればと思います。また、参加された方には、農畜産物に対し正しい知識を身につけるために勉強をなさっていること、酪農体験を通じて消費者と生産者とのコミュニケーションを図り、また、「安心・安全」を十分に理解いただけたことと思います。



子牛にミルクをあげ、寝床の掃除

甘くて美味しいイチゴが
こんなにとれたよ！



あつ、こっちにもイチゴなってるよ！

豊原地区・青野牧場さんのイチゴ収穫も今年で20年目を迎えました。豊原保育園児たちのイチゴ狩りの前日(7月10日)に取材させていただきました。イチゴの苗から伸びるランナー(茎)の切り取りの作業をされていて、イチゴ狩り体験の事前の準備に追われている中、快く取材に応じていただきました。今年は天候不良が続いたため量



暑さに負けず歩きました



が多く獲れないと心配されていました。栽培している品種は人気のある「けんたろう」と、20年前に植えた「きたえくぼ」。昨年は北海道内で一番人気の品種「けんたろう」のみでしたが、今年は「けんたろう」400本と20年前にイチゴ栽培をスタートした当初の品種「きたえくぼ」を、記念の意味も込めて50本植えました。収穫日、前日の取材で収穫と試食をさせていたと、と、「けんたろう」は表面が柔らかく、酸味が少なくとても甘く、香りも良い。「きたえくぼ」は歯触りがし

っかりして、甘さに加え程よい酸味がある印象を受けました。

「きたえくぼ」の可愛い
名前に惹かれ

青野さんにイチゴ栽培を始めた理由を訪ねると「20年前に道産8号という品種が一般公募で「きたえくぼ」に決定したというニュースを聞き、とてもかわいらしい名前だと思った」のがきっかけでした。また、「娘が保育園児だった頃、保育所の先生にイチゴ栽培を始める」と話したところ、是非、園児たちに収穫の体験をさせてほしい！となり、豊原保育園児がイチゴ狩り体験を行うようになりました。

イチゴ狩り当日は暑すぎるほど好天に恵まれました(昨年は台風の影響で園児によるイチゴ狩り体験は中止になりました)。いつもは豊原保育園から青野牧場まで約3.7kmの道のりを歩く「イチゴ狩り遠足」を行っていますが、今年は5月に熊が出没したため、青野牧場の約0.7km手前の遠藤牧場前から遠足がスタートし



真っ赤に実ったイチゴたち



お母さんと獲れたてイチゴと一緒に記念撮影

ました。「朝4時半に起きたよ」という園児の声を聞き、とてもイチゴ狩りを楽しみにしていた園児たち。

青野さんからイチゴの獲り方のコツを教わると、パックを手にした園児たちはお父さん、お母さんと一緒に赤く大きいイチゴから獲っていきました。少し経つとパックはイチゴでいっぱいになり、お母さんや先生に「見て」

こんなにとれたよ！」と自慢顔。

みんなで収穫したイチゴをお土産用にパックへ詰めると31パックになりました。いつも68パックほど収穫される例年と比べても、やはり心配していた通り半分ほどとなりました。

手づくりのイチゴ料理に目を輝かせ「いただきます！」

イチゴ狩りが終わるとコミュニティホールへと移り、お母さんたちの手作りのイチゴジャムサンドウィッチや、フルーツポンチにイチゴシャーベットとたくさん

のイチゴ料理がテーブルに並び、並べられ、「いただきます」を待ちわびている園児たちの表情が印象的でした。準備していただいたお母さんたちや青野さんに「ありがとうございました」「いただきます！」のお礼と、待ちわびた「いただきます！」。お母さんや先生に「このイチゴとっても美味しいよ」と



お母さんたち手づくりのイチゴ料理に大満足

笑顔が溢れる園児たち。お父さん、お母さんたちも暑さから生き返るような涼しさでした。

イチゴシャーベットは「冷凍庫から取り出して5分くらい経つと柔らかくなつて食べ頃になるよ」と青野さんに教えていただき、試してみると本当にシャーベット特有の硬さが無くなり、シヤリシヤリした食感でとても美味しく感じました。

前日からお母さん達が丁寧に手作りのイチゴジャムサンドウィッチやフルーツポンチ、イチゴシャーベットの他に、青野さんが手作りにしてくれたイチゴジャムとルバーブ(フキのような見た目でヨーロッパではパイやジャムの材料として一般的)のジャムをクラッカーに乗せながら、美味しそうに頬張っていました。お腹いっぱいイチゴ料理を食べた後は、他のテーブルのお友達と遊んだり、先生の読む絵本を聞いてお父さん、お母さん達とお家へ帰りました。

来年は、天気にも恵まれてもつと多くの実がなるといいですね。

※例年、Aコープなかしゅんべつにて青野牧場のイチゴを販売しておりましたが、今年は不作のため、販売を見合わせる事となりました。ご了承ください。また、中春別農協のミルク



収穫したイチゴを前にお父さんお母さん、先生と豊原保育園児たち



毎年、園児たちから青野さんに贈られるメッセージボード

王国で販売される「青野さんちのとれたてイチゴ(トッピング)」は、青野さんで獲れたイチゴを100%使用しています。

先月号に引き続きサポート研修生を掲載いたします。牛に足を踏まれたり、蹴られたりと悪戦苦闘していますが日々成長し、研鑽している3人。

キツネや鹿が当たり前のよう

にいたり、星が綺麗なのに驚いたりと雄大な北海道を楽しみながら張り切っています。

牛の愛くるしさに魅了され

中田 晶子

青森県出身の晶子さん、幼い頃はゲーム機を持っていなかったこともあり、外で遊ぶ活発な子供だったそうです。4人兄妹の末っ子だった晶子さんは1番上にひと回り歳の離れた兄がいて、「小

学生になった時には1番上の兄はすでに家を離れた後でした。兄弟喧嘩はあまりした記憶がありませんが、ミカンの投げ合いの喧嘩をしたことは覚えていました」と、壮絶な兄弟喧嘩の話を教えてくれました。

晶子さんは現在亀を2匹飼っており、名前は「社長」と「部長」だそうで、11月で飼いはじめてから2年にな

る彼らは大きく成長し、最近はお腹を見ないと区別がつかなくなっていました。そのことを、天気が良い日には体を伸ばして日向ぼっこをしているようなのですが、人の気配を感じると伸びるのをやめてしまい、飼主の晶子さんですらその姿を見ることはまれだそうです。

晶子さんは初めて牛を見た時にその愛くるしさに魅了され、その後、酪農関係の仕事に就くためにパソコンを使い独学で勉強を始め、そのことを良く知っていた高校の先生が求人を見つけてくれたのがきっかけでヘルパーとして仕事を開始し、その後サポートに転向して、今ではサポート歴の一番長いベテランになりました。「就職するときは親にすごく反対されました、離れた土地で

言われてしまうそうです。仕事の話を聞いていると「牛に足を踏まれた時に、どうにか足をどかそうと奮闘している」と、農家さんが来てくれて助けてもらえるかと思つたら、笑つて見ているだけで助けてくれなかったのはショックでした」と、切ないエピソードを聞かせてもらいました。今後はアクテイブハウスの皆ともっと交流する機会をもうけたい！とウキウキした様子の晶子さんでした。

牛が牛らしく生きていて充実した毎日

加藤 博子

愛くるしい笑顔が印象的な博子さんは三重県出身で、幼い頃は家の壁紙を剥がして遊んだり、弟をマンガ雑誌で叩いて泣かせてしまふなどおてんばな子供時代だったそうです。加藤家は仲が良く、今でも弟とはカラオケに行くことがあるそうです。

農業高校に通っていた博子さんは果樹を専門に学ん



子牛にミルクをあげる準備をする晶子さん

中春別営農サポート協議会の研修生を紹介します

②

雄大な北海道を満喫し、牛飼いを勉強し充実した毎日。

でいて、ブドウの勉強などを主にしていたそうです。以前、勤めていた会社は10年間務めていたそうですが、「菊と緑の会」に参加したのが縁となり、北海道へ移住してきたそうです。北海道



牛に蹴られ青タンだらけになっても持ち前の明るさで張り切る博子さん

の夏の暑さには驚いたようで、「正直こんなに暑いとは思っていませんでした。でも夜は涼しくて良いですね、熱帯夜がないのはとても過ごしやすいです。北海道へ来てまだ2カ月ほどしか経っ

ていませんが、すでに北海道がうつつてしまいました」と、地元とは違う環境に慣れ始めているようでした。

「以前勤めていた会社では700〜800頭飼育しており、流れ作業での仕事で工場のようなでしたが、今の環境は牛が牛らしく生きているというのを感じられとても充実しています。北海道の牛には慣れましたが、蹴られて足が青タンだらけで少し痛いんです。青タンは前の会社でもたびたびつくっていたのですが、エピソードといえば牛に顎を思い切り蹴られたことがあって、青タンが顎鬚のようになってたことがあったのですが、私は痛いとか悲しいとかよりも顎鬚みたいに見えて面白い！」としか思えなくて、痛い事を忘れて笑ってしまいました。他にも頭をぶつけてすごく痛かったこと、上司にこらえきれず笑いながら伝えると全然心配してもらえませんでした」と、底抜けに明るい博子さんらしいエピソードを教えていただきました。

休日は食材調達の後には家

でのんびりと過ごしている博子さん、今後は料理のレパートリーを増やすことと、なぜか味が濃かったり薄かったりするので安定した味の料理を作ること目標にしたいとのことでした。

これ以上ない星の 綺麗さに驚く

陽川みな美

みな美さんは広島県出身で、幼少期は女子とおままごとより男子とレンジャーごっこを楽しんだり、弟と虫取りをしたりと活発な子供だったそうです。以前は事務系の職場に勤めていたみな美さんですが、もつといういろいろなことを経験してみたいの思いから菊と緑に参加し、それがきっかけとなり、今こうして北海道で働けることができているそうです。

動物がとても好きだというみな美さんですが、昔は酪農の仕事をするのにならんとは想像しておらず、自分でもびっくりしているとのこと。体力的にはまだまだですが、今の生活は

とても充実しています」と、幸せそうに話していただきました。

今まで北海道のイメージというものが全くなかったそうですが、今は「車を走ら



レベルアップを図り、将来は農業機械を運転してみたいと話すみな美さん

星の綺麗さに驚いて、これ以上の上のものはないのだろうかと思いましたが、北海道の魅力を少しずつ感じてきているようです。以前はゴスペルやタップダンスをしていたみな美さんですが、今はすっかりやらなくなってしまうくらい、今は新しい趣味を探している最中だそうです。せっかく北海道で働いているのだから、ウインタースポーツに挑戦してみたいそうですが、「スキーは子どもの頃、父親に無理やり高いところ連れて行かれて、少し怖い思いをしたことがある」と苦い思い出を話してくれました。

せいているとキツネ・鹿が当然のように道路を横断している、まるでサファリパークのようです！牛と関わっている人も人懐っこい牛がいたり、そうでない牛もいたり個性があつて、とても面白いと思います。牛舎で犬・猫が放し飼いにされていて、子牛の上に乗っていたのにはびっくりしました。後は

これから自分のレベルアップをしたいと言うみな美さん、子供の頃に稲作をしているお爺さんのトラクターやコンバインに乗る姿を見てから憧れがあるようで、いつか自分も農業機械に乗れるようになりたいですと話していただきました。

根室農業改良普及センター
営農対策情報

残暑時も暑熱対策を！

乳牛は、第一胃での発酵熱の発生や産乳による代謝熱など、自ら発生する熱が多いため暑さに弱い傾向にあります。

ここ数年、盛夏のみならず残暑時にも気温が高い場合があります(図1)。気象の推移には注意が必要です。

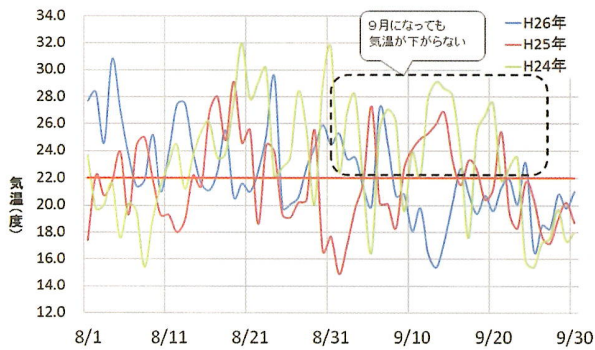


図1 過去3年の最高気温推移(別海町8～9月)

1 送風・換気対策
22℃以上の気温が続いた場合や

夜間の気温が低下しない時など、乳量や繁殖成績に大きく影響し、暑さのピーク後もその影響が残ります。

牛舎の開放面積を最大限に広げ、送風は体感温度を下げる効果が大きく、風速1mの風で、6℃体感気温が下がります(表1)。牛体に直接風があたるように、送風ファンを設置します。

表1 風速による体感気温の違い

温度(℃)	30.0	30.0
風速(m)	1.0	2.0
係数(6～10)※	6	6
体感温度	24.0	21.5

※ 養育牛舎内は牛が並んでいるため、牛体にあたる風はファンの風速よりも低速の風となります。よって、係数はやや低目に見積もっています

2 直射日光対策



写真1 すだれの設置例

牛舎内に西日が長時間入ってくる時期となります。遮光ネットやすだれで直射日光

をさえぎると(写真1)コンクリートの表面温度は10℃前後まで下がります。ただし遮光ネットなどの設置時は、前述の送風・換気効率を低下させないように、留意します。

3 乾物摂取量の確保

飼槽・水槽における残飼の変敗や臭いの発生が気になる時期です。一口でも多く食い込ませる工夫で、乾物摂取量を落とさないようにしましょう。

- ・飼槽・水槽のこまめな清掃(写真2)
- ・給餌回数・掃き寄せ回数の増加(写真3)
- ・消化性の良い飼料(適期刈り牧草やコーンサイレージ)の給与



写真2 水槽ベロの裏まで綺麗に清掃



写真3 餌寄せて採食量アップ

4 ミネラル、ビタミンの補給

発汗などによるミネラル排出や暑熱時のビタミンの損失量の増加に対応し、ミネラル・ビタミンは1～2割程度増給します。

固形塩を使う場合、搾乳牛には濃厚飼料と一緒に粉碎塩を50g程度給与した上で、固形塩を自由になめさせると、より確実に補給できます。また、ルーメン発酵を安定させるため、重曹の給与も有効です。

5 夏・秋期の放牧管理

暑熱対策とは異なりますが、この時期の放牧の課題も乾物摂取量の確保にあります。今後、放牧草の草勢が衰えていく時期となるため、牧区の設定などの工夫が必要となります。

- ・休牧日数の延長
- ・兼用草地活用や牧区面積の拡大
- ・掃除刈りによる不食草除去
- ・兼用草地への水槽や給水車設置(写真4)



写真4 兼用地でも給水は大切です

●酪農経営科【委託実習 & インターンシップ】

6月8日(月)～12日(金)の5日間、酪農経営科の2・3年生が、農家委託実習とインターンシップを実施しました。

今年度はJA道東あさひ(別海地区3人、西春別地区2人、上春別地区2人)、JA中春別(豊原2人、中春別1人)JA計根別(2人)がそれぞれの酪農家さんで4泊5日の委託実習に取り組みました。

自家が酪農を営んでいる生徒、非農家の生徒と状況はいろいろですが、生徒各自、自分に与えられた仕事に対して、投げ出さず取り組んでいました。酪農家の方にも大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後とも高校の活動に対しまして、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。また、インターンシップでは、整備工場と生乳生産課でお世話になりました。重ねてお礼申し上げます



上春別・岸本牧場さん



豊原・斉藤牧場さん

●酪農経営科【校内技術競技大会を実施】

6月23日(火)に、農業クラブ3大行事の2つ目となる校内技術大会が行われました。

乳牛審査競技では、本校卒業生の伊藤牧場より育成牛4頭をお借りし、審査員としてジェネティクス北海道の本木 洋一様を招いて実施しました。競技の前には、牛の見方について講義を受け、競技後には模擬講評を実施するなど、関係各位の協力をいただき、有意義に実施することができました。

各競技の最優秀賞、優秀賞は以下の通りです。

【乳牛審査競技】最優秀:2年矢内佑輔、優秀:3年井上季音、2年中村矢珠子

【農業鑑定競技(畜産)】最優秀:2年堀有樹、優秀:3年井上季音、努力賞:2年佐藤美稀

【農業情報処理競技】最優秀:2年内山彩香、優秀:2年佐藤美希、努力賞:3年井上季音



乳牛審査競技の様子

●農業特別専攻科【酪農機械・施設学】

6月16日(火)～18日(木)まで3日間、「酪農機械・施設学」を実施しました。

16日は午前中、農業改良普及センター調整係長の小出様より、現場での指導をふまえた搾乳生理と搾乳手法について、午後からは別海町酪



AED講習会の様子

農研修牧場長の樋野様より正しい搾乳法や研修牧場の役割などについて具体的にご講義いただきました。17日は別海消防署の林様より救急救命講習や農作業事故発生時の対応について、18日は午前中、農業改良普及センター主査の田口様より、事例を紹介していただきながら乳牛のカウコンフォートについて、午後からは北海道オリオン株式会社別海営業所所長の玄様と酪農事業本郡の松井様より、ミルカーシステムの種類と特徴について詳しくご講義いただきました。3日間の講義をとおして、学生からは「現場での事例や先進的な技術紹介をわかりやすく説明してもらい、非常に参考になった」「もしもの農作業事故に備え、できることをしっかりおさえておきたい」という感想がありました。今後の就労や実習に是非生かしてほしいと思います。

●【基礎研究・修了研究活動】

専攻科1年目学生全員には基礎研究活動(農場の現状把握・課題発見)2年目の学生全員には修了研究活動(大学の卒業研究のようなもの)があります。この授業では、

1年間をとおして自家の現状や課題と向き合い、酪農技術の向上や課題を解決する力の涵養を目的としています。2年目学生の研究テーマは多岐にわたり、学生自身が設定し計画を立て、調査等は自主的に進めます。この修了研究活動報告は11月30日(月)に、基礎研究活動報告は来年3月15日(火)専攻科ゼミ研究室にておこないますので興味のある方は是非ご参加ください。



TMR切断長調査

別海高等学校農業特別専攻科 説明会のご案内

日時:平成27年8月21日(金)10:30~14:30

場所:専攻科ゼミ研究室

内容:①専攻科とは(取得できる資格・学費・進路など)

②どんな専門的な授業をしているのか

③体験授業や施設見学など

④卒業生の体験談(新規就農・新規就農予定者)



働きながら
2年間学び
ます

ニュージー
ランドで研修
ができます
(半額助成)

全国各地から
学生が集まり
ます

青年就農給
付金(準備型)制
度対象校です



ニュージーランド農家との交流



専門性を高める授業

参加希望、学校教育内容のお問い合わせは下記まで

〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70-1 TEL0153-75-2053 FAX0153-75-2263
ホームページ <http://www.bekkai.hokkaido-c.ed.jp> E-mail bekkai-t4@hokkaido-c.ed.jp

・18歳以上の男女が、働きなが
ら学ぶ場所です。

・修了生は、酪農自営・酪農ヘル
パー・家畜人工授精師・酪農関
係企業などで活躍しています。

・牧草の収穫時期には、家、就労
先で実践を、春・秋・冬には通学
して理論を学びます。

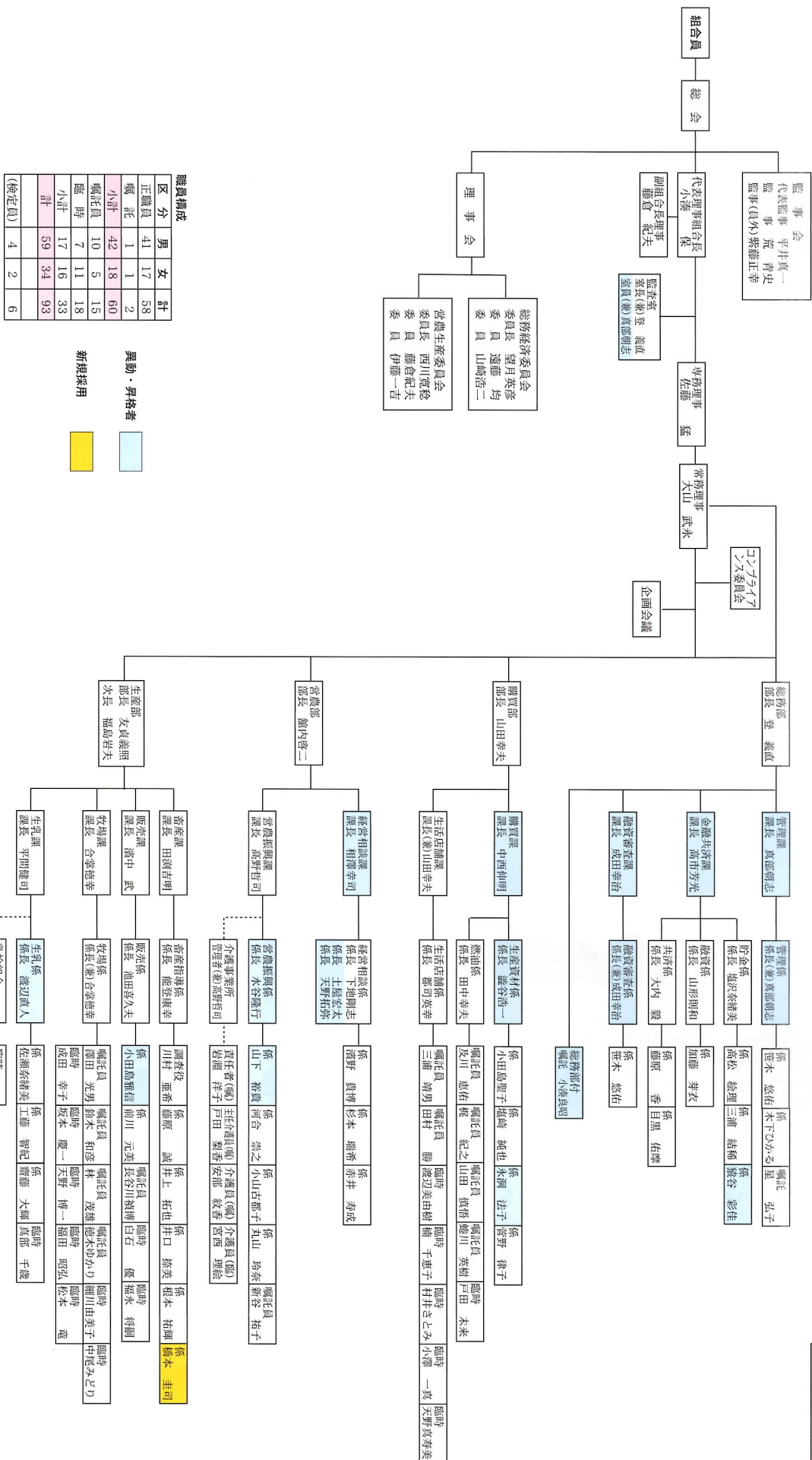
・授業は10:45分から始まり、14:
30分には下校→朝夕の仕事をし
ながら通学できます。

酪農関係に就農希望の方

・正規従業員として、働きながら通
学できます

別添資料 JA 組織機軸圖と職員配置圖

平成27年7月1日現在



職員構成				
区分	男	女	計	
正職員	41	17	58	
嘱託	1	1	2	
小計	42	18	60	
嘱託員	10	5	15	
臨時	7	11	18	
小計	17	16	33	
計	59	34	93	
(検定員)	4	2	6	

異動・昇格者

新規採用

字	1
---	---

臨時休業(お盆)のお知らせ

休業

事務所名	日程	8月15日(土)	8月16日(日)
事務所(除く信用)		休業	休業
事務所信用窓口	午前9時～正午まで営業(ATMのみ)	休業	休業
Aコープ中春別	午前9時～午後3時まで営業(店内販売のみ)	休業	休業
給油所	午前8時～午後5時まで営業(店内給油のみ)	午前8時～午後5時まで営業(セルフ給油のみ)	午前8時～午後5時まで営業(セルフ給油のみ)
倉庫		休業	休業
訪問介護事業所「あさひな」	サービス提供のみ	サービス提供のみ	サービス提供のみ
人工授精	平常業務	平常業務	平常業務
共和牧場	平常業務	平常業務	平常業務
生乳	平常業務	平常業務	平常業務
(有)中春別マシンセンター	休業	休業	休業
(有)ジェイエー・ワン	休業	休業	休業

◎緊急時の連絡先

①給油について

(緊急携帯) 田中係長 080-6090-2923

②飼料等について

(緊急携帯) 別海貨物(山口)
090-5072-3956

③店舗について

(緊急携帯) 郡司係長 090-2696-2702

④有中春別マシンセンター

(緊急携帯) 佐藤専務 090-9759-6449
(緊急携帯) 土屋工場長 080-6086-3273

⑤有ジェイエー・ワン

(緊急携帯) 猿谷専務 090-6877-6207
(緊急携帯) 久保山課長 090-1529-9846

農業者年金基金理事長賞表彰 3部門で全国第1位を受賞!!

別海町農業委員会は、平成26年度農業者年金新規加入者部門、女性新規加入者部門、新規加入者(39歳以下)部門で、それぞれ全国第1位に輝き、また、加入推進活動にあたり特に模範になると認められ、全国総合第1位として特別賞も受賞しました。

農業者年金については、農業委員会またはお近くのJAへお問い合わせください。



青年部・女性部合同 お中元ギフトお礼と結果報告

今年も青年部・女性部合同お中元ギフトセットの作成、取りまとめを行いました。

べつかい乳業興社アイスのAセット、なかしゅんミルクロールのBセット、チクレンハンバーグ・乳ぼた餃子のCセットの3セットを作成・推進を行いました。



各セットの結果はAセット157セット、Bセット52セット、Cセット22セット。注文総数231

夏休み中の小学生が事故に遭うのが多発しています

7月13日(月)、中春別駐在所前にて夏の交通安全街頭啓発が行われ、道行くドライバー1台1台に「べつかい牛乳」を配布し交通安全の呼びかけを行いました。

地元町内会、農協職員など約20人の方々の協力のもと、スピードダウンや飲酒運転の根絶を呼びかけました。

小学生が巻き込まれる事故が地区内でも発生しており、そうした痛ましい事故が起きないようにドライバーひとり一人の交通安全に対する意識が必要です。

啓発の重点内容

- 子供と高齢者の交通事故防止
- 全ての座席のシートベルト・チャイルドシートの正しい着用
- 飲酒運転の根絶



セットと過去最高の注文数となりました。多くのご注文ありがとうございました。

来年度以降も消費拡大を目指し、青年部・女性部協力し合い、皆さんにお喜びいただけるセット内容を作れるよう考案していきますのでご協力の程よろしく願いいたします。



国民の皆さまへ

日本年金機構への不正アクセス事案では、皆さまの年金情報が流失し、ご迷惑、ご心配をおかけしております。申し訳ありません。

政府は、皆様の年金を守ることを最優先に取り組んでいます。

あわせて、皆さまにお気を付けいただきたいことがあります。

「年金情報流出」を口実にした犯罪にご注意ください！



日本年金機構を名乗って講座番号を聞き出そうとする者や、「流出した個人情報情報を削除してあげる」と持ちかけてくる者が現れています。

- 日本年金機構から、この件でお客様に電話やメールで連絡することは、一切ありません。なお、流出が確認された方への新しい基礎年金番号は、郵送でお知らせします。
- 日本年金機構が、この件でお客様にお金やキャッシュカードを要求することは、一切ありません。
- 日本年金機構が、この件でお客様にATMの操作をお願いすることは、一切ありません。

ご自分の情報が流出しているのでは？ など、ご心配の方は、下記専用電話窓口またはお近くの年金事務所へご相談ください。

日本年金機構専用電話窓口(通話料はかかりません)

0120-818211

受付時間8:30~21:00(平日及び土日)

Q 今回の不正アクセスにより、私の年金そのものがなくなったり、減ってしまうことはないのですか。

A ○今回の不正アクセスにより、皆さまの年金そのものがなくなったり、減ったりすることは、ありません。
○皆さまへの年金支払の基となる年金記録を管理するシステムからの情報の流出や年金記録の改ざんは、確認されていません。
○なお、流出した基礎年金番号は、新しい番号に変更いたします。番号が変わっても、皆さまの他の年金記録は変わりません。

Q 年金の支払いに滞りはできませんか。

A ○年金の支払いが滞ることは、ありません。
○万が一、支給日の15日を過ぎても支払いがない場合には、お近くの年金事務所にお問い合わせください。

Q 流出した情報を使い、他人がなりすますことで、私の年金が横取りされることはないのですか。

A ○横取りにより、皆さまに年金が支払われなくなることは、ありません。年金は、ご本人に確実に支払われます。
○年金は、ご本人名義の口座に振込みます。流出した情報を使い、他人が年金の振込先を変更することはできません(振込先を変更するためには、金融機関の証明印やご本人の預金通帳の写しなどにより、日本年金機構がご本人の口座であることを確認します)。
○ご不審な点やご不明な点があれば、日本年金機構専用電話窓口やお近くの年金事務所へお問い合わせください。



厚生労働省

Ministry of Health Labour and Welfare



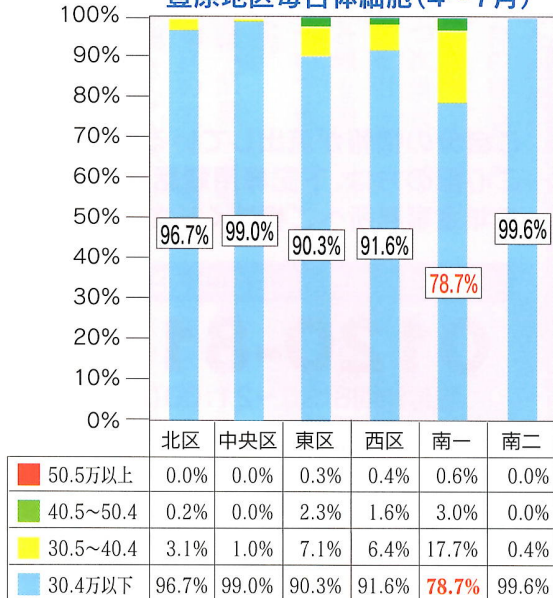


生乳汚染事故を無くそう！

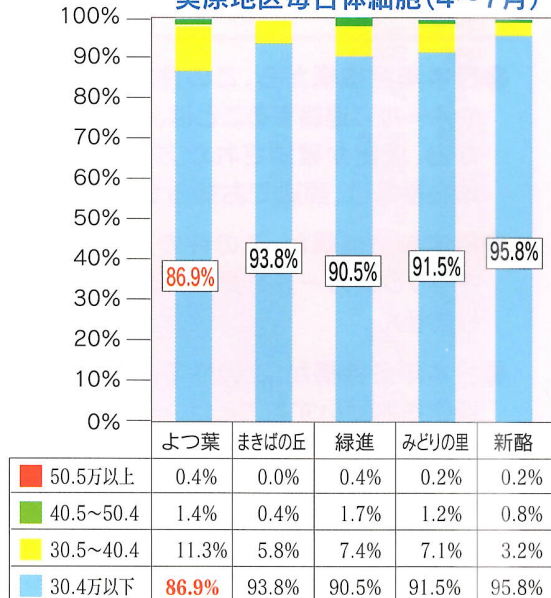
- 抗生物質混入事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では**3**件です。
- 生菌による汚染事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入、加水、**血乳**による汚染事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では**1**件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。

牛の肢蹄は大丈夫ですか？
 おおよそ葉書4枚分の面積の肢蹄で全体重を支えています。肢蹄の管理は牛の健康管理でもあります。定期的な削蹄を実施しましょう。

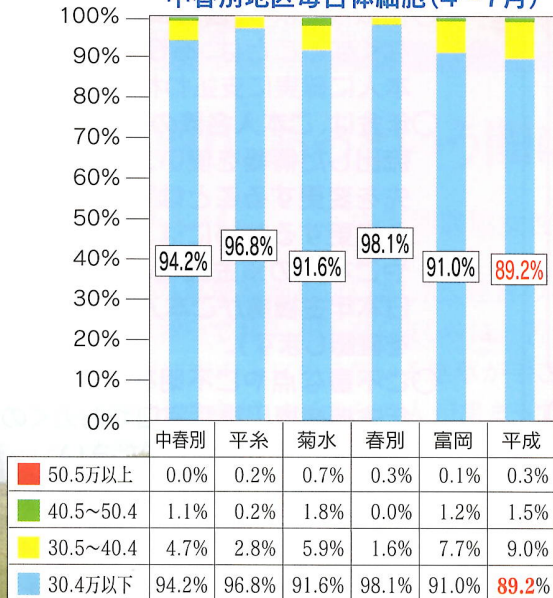
豊原地区毎身体細胞(4～7月)



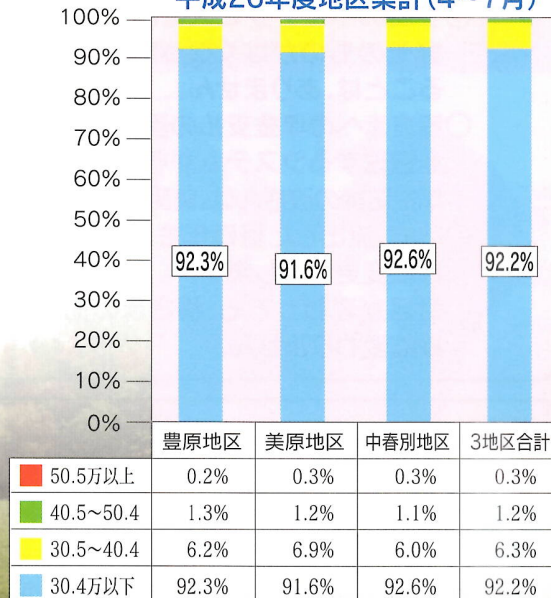
美原地区毎身体細胞(4～7月)



中春別地区毎身体細胞(4～7月)



平成26年度地区集計(4～7月)



第5回 理事会の動き

平成27年7月23日(木)

議 案

1. 第17回「宵の市」の開催について
2. コンプライアンスマニュアルの一部改正について
3. 平成27営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
4. 平成27年度大家畜特別支援資金への借換について
5. 平成27年度JA畜産経営継承支援事業の実施について
6. 平成27営農年度クミカン取引について
7. 平成27年度飼料生産型酪農経営支援事業について
8. 平成27年度JA中春別生乳計画生産に係る生産者配分の基本方針について

報告事項

1. 人事の発令並びに新規採用辞令の発令について
2. 緊急事態発生対策・火災発生対策機構図の変更について
3. 平成27年度6月末財務状況について
4. 平成27年度6月末購買実績について
5. 平成27年度6月末営農生産関連実績について
6. 臨時休業(盂蘭盆)について
7. 総体的なリスク量管理および事業量・利益・リスク・資本のバランス確認報告について
8. 内部統制等に係る指導要領JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
9. 要改善JA要綱・JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち全中および農林中金が定める事項について
10. 全酪連海外研修について
11. 共和育成牧場預託牛事故に係る互助会規定による見舞金の支払について

協議事項

1. 第10次中期経営計画並びに地域振興計画の取り進めについて

6月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

			単 価	算 出 基 礎	支 払 価	前 年 期	差
乳 脂 肪 分			907.761		34.58	32.88	1.70
無 脂 乳 固 形 分			573.217		50.07	47.53	2.54
補 給 金			4.4834		4.48	4.31	0.17
計 画 チーズ 奨 励 金			1.7308		1.73	1.89	-0.16
乳 質 単 価	生 菌 数	ランク 1	2	314,159,747.9kg	3.71	3.68	0.03
		ランク 2	0	6,902,983.4kg			
		ランク 3	−3	449,501.8kg			
	体細胞数	ランク 1	2	273,524,074.7			
		ランク 2	1	25,457,756.6kg			
		ランク 3	−2	4,097,943.9kg			
合 計				94.57	90.29	4.28	

6月分乳代支払単価

項 目	単価(円)/(kg) %
乳 脂 肪 分 ①	34円58銭
無脂乳固形分②	50円07銭
補 給 金 ③	4円48銭
チーズ奨励金④	1円73銭
脂 肪 率	全 道 3.81%
	農 協 3.87%
無 脂 固 形 分 率	全 道 8.73%
	農 協 8.73%
成 分 乳 価	全 道 90円86銭
①+②+③+④=⑤	農 協 91円35銭
乳 質 乳 価 ⑥	全 道 3円71銭
	農 協 3円74銭
乳 代 合 計	全 道 94円57銭
	農 協 95円09銭
⑤+⑥	差 異 52銭

懐かしきあの頃… そして今。



当時の家は本当に寒く、吹雪の日には家のすき間から雪が入ってきたり、それでも環境に順応して丈夫で生活していました

今月は、「住宅」に注目したいと思います。
現在では、サイディングやガルバリウム鋼板などの外壁に、断熱材に二重窓はあたりまえの世の中ですが、入植当時はわらなどを使った屋根に木材はむき出しで、当然、窓も薄いガラスが1枚。断熱材などはなく、夏は暑く、一番大変な極寒の冬は、冷たい隙間風が入りこみ夜は、吐息が布団に白く霜になって張り付く状態でした。
暖房は藁ストーブしかなく、住宅の横には燃料となる藁を貯蔵しておく小屋があるか、出窓の下に置いていました。藁割はコツがある作業でした。火種になるように燃えやすい白樺の木の皮や、古紙を丸めてマッチで火をつけて藁をくべるのは、たいていどの家庭も子供の大切な仕事でした。
お風呂も藁で焚いていました。「外にある大きな釜の五右衛門風呂で、藁で温度を調節するのは大変で、藁で火の加減を計りながら熱過ぎず、冷た過ぎず、ちょうどいい湯加減を保った。お風呂に入るのも底に敷いた木製のスノコを浮かさないよう、慎重に入らないと熱い鍋肌に触れては火傷してしまう」と懐かしみながら教えてくれました。

編集後記

▼6月の寒さが一遍して連日、夏日の暑さが続いています。農作業やスポーツ時は熱中症、脱水症状の対策をしましょう！特に最近屋内での熱中症が増えてるそうです。

スポーツドリンクなどは、水分と塩分を摂取できるので効果的です。暑い1日の仕事を終えた後は、バーベキューをしながら冷えたビールを飲むのは最高ですが、アルコールと麦には利尿作用があり、脱水症状になる危険もありますので、お酒の飲み過ぎはご注意ください！

▼今月号よりくみあいだよりを担当することとなりました山下裕貴です。初めての取材が青野牧場さんのイチゴ狩り体験。緊張している私にやさしく接し、対応していただいた青野さん、本当にありがとうございました。来年はイチゴが豊作で、園児たちの喜ぶ声といっぱいの笑顔を見たいですね。

▼「なかしゅんべつ」組合だよりは地域の明るい話題を掲載していきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。イベントやお祭りなどの取材は営農振興課電話76'2241番までお知らせください。よろしくお願いいたします。